

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

平成30年度 第2回 松戸市地域ケア会議
平成31年2月14日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

- 平成30年6月～12月の間、地域包括ケア推進会議は合計16回開催され、医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、ボランティア・権利擁護機関・病院・子ども担当部署・警察・消防等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

1. 認知症関係

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
1. 認知症の理解促進 見守りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が認知症の人の見守りをスムーズに行うことが難しい。 ○地域住民に認知症の理解を促す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共依存の家族関係で、地域とつながりがなく、介入が困難な事例【五香松飛台】 ○認知症の人が何度も同じことを地域住民宅に聞きに行ってしまう。【六実六高台】 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会やサロン単位での認知症サポーター養成講座の開催ができるよう、地域包括が各団体や自治会等に呼び掛ける。 ○町会・民生委員・高齢者支援連絡会が地区社協等を通じて三者会議を行う。【五香松飛台】 ○認知症サポーター養成講座や小中学生に認知症の授業を行う。【六実六高台】 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症サポーター養成講座についての市民への普及啓発 	五香松飛台 六実六高台
2. 認知症の早期支援 地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症高齢者の早期発見・早期対応の必要がある。 ○認知症カフェの周知、浸透を図ることが難しく、なかなか人が集まらないカフェもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○5年前にアルツハイマー型認知症と診断されていたが、重度化した現在まで介護サービスを受けていなかった。【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の医療関係機関・民児協・高支連と連携し、「まっど認知症予防プロジェクト」を推進。【小金】 ○町会や自治会の掲示板利用やケアマネからの情報発信。 ○専門職の参加による活性化。 ○地域住民が運営を手伝う。 ○リーダーシップを発揮できる人材の確保。 ○休日に開催、高齢者が運営、認知症予防ができる、居心地が良いなど、いろいろなカフェがあると良い【明1】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でのネットワーク構築のための支援 ○既存の認知症カフェに関する運営方法、工夫等についての情報共有 	小金明1

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>3. 消費者被害の防止の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で起きた詐欺被害の状況を地域全体で情報共有することが必要である。 ○詐欺被害防止の対策について、情報提供や周知に課題がある。 ○高齢者が被害にあう前に早期発見、早期対応ができる地域の体制を整える必要がある。 ○詐欺被害防止における意識の向上について、町会を含めた地域全体での取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同居家族があり認知症状軽度の女性がキャッシュカード詐欺に遭った事例【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会・町内会での回覧等、防犯活動の強化や被害状況の報告など連絡体制の構築 ○被害に遭った人、詐欺未遂被害者が体験を語る。 ○留守電機能の活用や詐欺被害対策機器の周知 ○詐欺被害防止方法の情報提供 ○詐欺被害防止チェックリストの配布・実施 ○日ごろから地縁・血縁関係を築き、近隣住民が顔の見える関係やつながりを構築する。 ○被害に遭いやすい高齢者への声かけ支援 ○詐欺被害にかかわらず、高齢者の相談を聞く。 ○地域、学校、薬局、病院、商店、介護事業所が一斉に詐欺被害防止キャンペーンを実施する ○サロン等で詐欺被害防止について話し合いの場を提供 ○詐欺被害対策の講演会やビデオ上映会の開催 ○地域の掲示板、店舗、病院、薬局などでポスターの掲示 ○詐欺被害防止ステッカー配布や、対策マニュアルの作成・配布 ○詐欺被害防止訓練の実施【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報や防災無線・メール・ステッカー等を活用した詐欺被害に関する情報や相談窓口の周知 ○詐欺対策機器利用の推進や地域での啓発活動の支援 ○警察・金融機関・介護事業所等の詐欺被害に関する情報共有、ネットワークの構築 	<p>常盤平</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

2. 医療連携関係

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
4. 在宅ケアに関する啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅ケアの市民への周知、普及を図るために、さらなる取り組みが必要である。 ○地域の人が、高齢者の生活を支援する制度や相談機関について十分な知識がないため、高齢者のみの世帯に不安を抱えがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員や近隣住民によって見守られていたが、家賃滞納やライフラインの停止、幻聴や独語も見られるようになった。病院嫌い。 ○認知症で寝たきり、褥瘡があるが、介護保険制度の利用を一切拒否し、介護者一人で介護している。【矢切】 ○夫婦ともに認知症があり、要介護状態の世帯について、近隣住民が不安を感じている。【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所や地域包括が、住民に対して制度やサービスについて説明会を開催する。 ○地域包括が地域の行事などに参加し、周知活動をする。 ○地域のサロンや老人会などで終活かたを利用する。 ○交通の便が悪く出かけられない方が多いため、講演会を身近なところで開催する。【矢切】 ○地域包括が主催するケアマネ交流会に地域住民（民生委員や高齢者支援連絡会）に参加してもらい、活動紹介や情報交換の場を設ける。【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度等の最新情報を、町会等と連携し、市民に周知する。 	矢切東部
5. 医療・介護連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関の連携が図れず、早期の把握や適切な支援につながりづらい。 ○救急搬送時に認知症などで、本人が発信できない場合の必要な情報の共有が必要。 ○病院の外来で、認知症の方の残薬の把握が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○てんかん発作の不安から救急要請を繰り返し、被害妄想から警察とも関わりを持つが、適切な支援につながっていない。【本庁】 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関の活動や役割を互いに知る。 ○日頃から顔の見える関係づくりができる機会をつくる。 ○それぞれの関係機関が活動の周知を図る。 ○個人情報保護の観点を踏まえつつ、それぞれの立場から情報共有ができる仕組みづくりを考える。【本庁】 ○近隣住民等への声かけ ○七福神カード、緊急時情報用紙の活用 ○病院とケアマネ、地域包括、民生委員、薬剤師会の連携 ○生活のサイクルを整え、自力での通院を支援【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○警察や消防が市と連携し、情報共有を図る仕組みづくり 	本庁 小金

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

3. 社会資源の把握・開発、見守り関係

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>6. 社会資源の把握・開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の集いの場の地域への周知と新規拡充 ○地域に気軽に集える場がない方に何が出来るか。 ○繋がりを持ちやすいように、世代ごとの特徴をとらえたサロン等の開催が必要である。 ○排泄介助が必要な方が利用できるトイレがない。 ○高齢者・軽度認知症の高齢者が気軽に通える集いの場が必要。 ○高齢者のサービスがひと目でわかるものがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デイサービスを拒否する要支援者にとって参加のハードルが低いサロンが近所がない。 【明2西】 ○筋力低下のためふらつきがあるが、自宅周辺を歩き回っている。趣味はあるが頻度が少なく、日中外出するような居場所がない。 ○判断力・理解力低下のため金銭管理が十分に出来ないが生活はできている。介護保険は非該当だが、日中活動できる場がない。 【明2東】 ○共依存の家族関係で、地域とつながりがなく、介入が困難な事例 【五香松飛台】 ○80代、独居、歩行能力の低下により活動範囲が狭まり、人との交流も少なくなった。 【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動や集いの場の運営を行う各団体の横の連携を強化して意見交換、情報共有、共同企画を行う。 【明2西】 ○老人会やパトロール、ふれあい会食会などの周知や声掛け。 ○男性が気軽に集まれる場所として、スーパーのフリースペースなどの活用を検討する。 ○イベントなどの際に、参加者にどういった集いの場を求めているかアンケート調査をする。 【明2東】 ○NPO協議会等と連携し、サロン等のマップ作りを行う。 【五香松飛台】 ○認知症カフェ等の増設 ○オレンジ協力員による個別支援（自宅からカフェまでの送迎等） 【小金】 ○地区内の特養等、施設に聞き取り調査を実施し、オムツの交換場所やトイレを貸してもらえる施設の目印となるものの作成を検討する。 【六実六高台】 ○本人にも家族にもわかりやすいマップの作成 【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○市全域の資源情報を一元管理する仕組み ○制度の狭間にいる方など、誰もが集える場の創出 ○移動手段がない方が社会参加できる支援 ○居場所作りをしようとしている人、団体への支援 	<p>明2西 明2東 五香松 飛台 六実六 高台 小金 馬橋</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑤

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>7. ゴミ出し、買物等の生活支援</p> <p>外出支援の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○移動、買い物困難高齢者への外出支援となる社会資源が少ない。 ○ちょっとした困りごとに対する社会資源やサービスが地域に不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で買い物に行けなことが閉じこもりにつながり、廃用症候群や認知症が進行している。【明2西】 ○自宅からゴミ置き場まで行けず、ゴミ出しができない住民に対して民生委員がゴミ出しを行っている。【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアによる「買い物レクリエーション」を地域ぐるみで企画し、移動・買い物困難高齢者の支援に繋げる。【明2西】 ○体操教室に参加している元気な高齢者にゴミ出しなどのボランティアをしてみよう。 ○ボランティア活動の実態調査を行う。【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ちょっとした困りごとに対する市独自の介護保険外のサービス ○趣旨に合ったボランティア活動ができるようなマッチング 	<p>明2西 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑥

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>8. 見守り・安否確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動の強化が必要である。 ○地域につながりを持たない世帯に対して、どのように関わり、見守りが行えるか。 ○相談に関するネットワークをもっていない人が多い。 ○高齢者の見守りに関する具体的な活動や支援の内容について、情報共有が不足している。 ○地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談・連絡体制、ネットワークの構築が必要である。 ○精神疾患や介護の問題を抱えている、外国籍で日本語が分からず困っているなど、地域で支援が必要な対象者を把握することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護者である家族がオレンジパトウォークで配布したチラシを見て包括への相談、支援につながった【明2西】 ○認知症疑いで日常生活に支障をきたしているが、親族や近隣住民との交流はない【明2東】 ○独居、日常生活動作能力が低下し、清潔保持が困難になるが干渉されずに生活を送りたいとの希望【常盤平団地】 ○高齢の本人、病気の子、問題を抱えている子の配偶者、孫と一緒に生活する【五香松飛台】 ○配偶者が入院し、事実上独居だが、物忘れも多く、安否確認や金銭管理、ごみ捨て等について見守りが必要。 ○集合住宅に独居だが、物忘れが多く、トイレや洗濯機の水漏れを繰り返している。【小金原】 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動や集いの場の運営を行う各団体の連携強化、意見交換、情報共有、共同企画を行う。【明2西・常盤平団地】 ○町会単位で住民が集まり交流できる活動の活発化。 ○民生委員が訪問で得た情報を地域で共有できるように、システムづくりの検討。 ○新規の相談があった際に、相談窓口をどのように知ったか確認し、普及活動につなげる。【明2東】 ○地域包括の普及啓発活動を地区社協を通じて各自治会に行う【五香松飛台】 ○情報共有やハブ機能を果たすため、地域包括など専門職が関わる【常盤平団地】 ○「みまもりあい中」と題したプレート、キーホルダーを製作し、住民に広く配布。 ○社会資源マップの整備【小金原】 ○外国語の教室などの活用 ○ハイリスクアプローチを利用して対象者を把握する。 ○病院の患者同士の繋がりや医師、薬剤師との情報共有 ○民生委員との情報共有 ○地区社協のサロンや会食会への参加を呼びかける【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動やイベントの場として、空き家などの場の活用を検討、推進する。 ○避難行動要支援者名簿等を活用し、地域全体で見守りができるネットワークづくり ○見守りに関する地域の好事例についての情報共有 ○民生委員等、見守り関係者との連携推進 	<p>明2西 明2東 五香松 飛台 常盤平 団地 小金原 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑦

4. 地域共生関係、その他

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
9. 障害者分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○精神疾患をもつケースの支援について、住民の理解を得ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○精神障害が疑われる住民が、近隣に対する迷惑行為を行っていたケース。【馬橋西】 		<ul style="list-style-type: none"> ○精神疾患についての普及啓発活動 	馬橋西
10. 多分野にまたがる支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや高齢者の孤食が多くなっている中、多世代で一緒に食事をする場が少ない。 ○地域に誰もが気軽に集える場所がない。 ○多世代の交流の場をどのように作ってゆくか。 ○住民同士の関心が薄い。 ○キーパーソンが多様化への対応が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の多子家庭。親は夜働き、小学生の子供達が10時頃に登校している姿を見る。 ○日中独居の高齢者。住民票上の“独居”には該当せず、ふれあい会食へも参加できず、孤食が常態化している。【明1】 ○日常生活動作は自立。地域とのつながりがなく、日中行き場がない。 ○意欲低下により閉じこもり、不活発な生活となっているが、デイサービスの利用は好まず、近くに通えるような地域の集まりもない。【本庁】 ○支援が必要な状態で、何年も前から商店等に來ていたが、誰も包括に相談していなかった。【六実六高台】 ○籍を入れていないパートナーや、実際に看ている家族とキーパーソンが家族が違うなど。【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の飲食店やクリニック内のカフェ、商店の飲食スペースの一角を活用し、食事の場を作る。【明1】 ○日曜日に開放可能なデイサービスを活用し、地域の集いの場をつくる。 ○社会貢献に理解のある企業に協力してもらい、商店等を活用したつどいの場をつくる。 ○担い手の養成のために、オレンジ協力員等の横のつながりをつくる。【本庁】 ○地域包括が子供と高齢者の交流を図っている行事やイベントについて情報を収集し、一緒に参加できるよう働きかける。→東部ふれあい広場に参加し、若い世代を対象に高齢者疑似体験を実施【東部】 ○既存の集いなどを周知し、地域で多世代が集える場所づくりを検討していく【六実六高台】 ○本人とキーパーソンを把握しておく。【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな場を作るにあたり、核となる人材の発掘 ○企業、事業所等と連携した場の確保のための支援 	明1 本庁 東部 六実六 高台 小金

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑧

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
11. セルフケアの推進	○健康診断の受診率向上により健康意識を高め、疾病の早期発見・治療、介護・認知症予防に繋げる必要がある。	○認知症の病識がなく、事態が深刻化するまで支援につながらない。 【明2西】	○オレンジ協力員の地域パトロールで「まつど健康マイレージ」のチラシを各家庭にポスティングし、健康診断の受診や健康活動についての意識を高めてもらう。 【明2西】		明2西

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑨

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>12. 災害発生時の要介護者等への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時における、町会役員の高齢化による担い手不足。 ○防災意識がない、避難場所を把握していないなど、災害に対する準備が不足している。 ○災害時の要支援者等の安否確認が難しい。 ○災害時の避難所運営が難しい。 ○災害時の情報共有や伝達に課題がある。 ○施設からの避難、施設への避難に課題がある。 ○災害時の外国人や帰宅困難者への対応に不安がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代も含めた町会・自治会への加入の促進。 【小金、新松戸】 ○防災ウォークによる避難場所の確認、避難訓練、非常食の試食など、防災意識を持つように住民、各家庭、事業所等への働きかけ。 ○地域の結束力、つながりの強化。 ○住民に情報登録の大切さを伝える。 ○避難所に協力してくれるケアマネ・訪問看護師等について、情報のリスト化。 ○学校、町会単位での会議を継続的に開催する。 ○避難所運営委員会の現状把握と周知。 ○電柱に記載されている避難所の確認。 ○情報収集や伝達方法についてマニュアル化し、認知度を上げる。 ○福祉避難所への移送方法の検討。 ○施設と避難所運営委員会との意見交換やマニュアル作り。 ○施設では訓練や水備蓄等を行い、避難について事前に入居者と相談しておく。 ○施設と避難所運営委員会による合同訓練の回数を増やす。 【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や事業所への要配慮者支援に関する啓発、相談支援 ○松戸市避難行動要支援者名簿等への登録の促進 ○町会・自治会への加入促進 ○各職能団体内で情報共有や連絡体制の構築 ○外国人などに対応できる多様な支援体制の整備 	<p>小金 新松戸</p>

別添

各地域包括ケア推進会議における 参加者・議題・議論

1. 明第1地区推進会議（平成30年11月27日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月27日 (火) 14:00~ 16:00	町会	1	医師		ケアマネ	2	1. 多世代でおいしく食事をする場の開発（地域の飲食店、介護事業所等の協力による取組み） 2. 認知症カフェの関係者等との連携、情報共有（認知症カフェのあり方について）
	地区社協		歯科医師		介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師		通所介護		
	民生委員	3	看護師	3	認知症デイ	1	
	ボランティア		保健師		グループホーム		
			医療相談員	1	地域包括	6	
			理学療法士	1	市役所	1	
			警察		(支え合う地域づくり勉強会) 1 (こども食堂) 1		
			消防				
					合計	22人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	子どもや高齢者の孤食が多くなっている中、多世代と一緒に食事をする場が少ない。	○近隣の多子家庭。親は夜働き、小学生の子供達が10時頃に登校している姿を見る。 ○日中独居の高齢者。住民票上の“独居”には該当せず、ふれあい会食へも参加できず、孤食が常態化している。	○	○既存の飲食店やクリニック内のカフェ、商店の飲食スペースの一角を活用し、食事の場を作る。 ・店内販売商品の安価での提供を依頼する。 ・農作物など食品提供を地域に依頼する。 ・熱意あるスタッフや地域の人材を募る。 ・対象となりそうな人への紹介や、参加の声掛け ・自力で来ることが困難な人への送迎手段の確保	○新たな場を作るにあたり、核となり運営を行っていく人材の発掘。

1. 明第1地区推進会議（平成30年11月27日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	認知症カフェの周知、浸透を図ることが難しく、なかなか人が集まらないカフェもある。		○	<ul style="list-style-type: none"> ○町会や自治会の掲示板利用やケアマネから情報を発信する。 ○専門職が参加し活性化を図る。 ○地域住民が運営を手伝う。 ○運営にあたり、リーダーシップの発揮できる人材を確保する。 ○休日に開催しているカフェや、高齢者が運営するカフェ、認知症予防ができ、居心地の良いカフェなど、いろいろなカフェがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の認知症カフェに関する運営方法、工夫等についての情報共有。

2. 明第2西地区推進会議（平成30年7月11日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
7月11日 (水) 19:00～ 20:30	町会	1	医師	2	ケアマネ	3	地域が一体化して地域課題に取り組むために必要なこと 1. 「見守り活動」と「集いの場」 各団体の活動報告 グループワーク 「地域全体の課題共有と今すぐ取り組むべきこと」 2. 健康診断の受診促進（報告） 3. 移動困難・買い物困難高齢者 グループワーク 「買物レクリエーションに多くの団体に関わってもらうためのアイデア・具体策」
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	2	GH	1	
	民生委員		看護師	1	特養	2	
	ボランティア		保健師		その他	3	
	高支連	3	理学療法士	1	地域包括	6	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		オレンジ協 力員	3	
			その他	1			
					合計	31人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	見守り活動の強化・既存の集いの場の地域への周知と新規拡充	○介護者である家族がオレンジパトウォークで配布したチラシを見て包括に相談があり、支援につながった。 ○デイサービスを拒否する要支援者にとって参加のハードルが低いサロンが近所がない。	○	○見守り活動や集いの場の運営を行う各団体（町会、民生委員、高支連、老人クラブ、元気応援くらぶ等）の横の連携を強化して意見交換、情報共有、共同企画を行う。	
イ	健康診断の受診率向上により健康意識を高め、疾病の早期発見・治療、介護・認知症予防に繋げる必要がある	認知症の病識がなく、事態が深刻化するまで支援につながらない。	○	○オレンジ協力員の地域パトロールで「まつど健康マイレージ」のチラシを各家庭にポスティングし、健康診断の受診や健康活動についての意識を高めてもらう。	

2. 明第2西地区推進会議（平成30年7月11日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	移動、買い物困難高齢者への外出支援となる社会資源が少ない	自分で買い物に行けないことが閉じこもりにつながり、廃用症候群や認知症が進行している。	○	○ボランティアによる「買い物レクリエーション」を地域ぐるみで企画し、移動・買い物困難高齢者の支援に繋げる。	

3. 明第2東地区推進会議（平成30年9月19日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月19日 (水) 17:45~ 19:15	町会	8	医師	1	ケアマネ	4	1.安否の確認がしづらい中、地域につながりを持たない世帯に対してどのように関わりを持ち見守ってあげば良いか 2.地域に気軽に集える場がない方に何が出来るか
	地区社協	1	歯科医師	2	介護事業者	4	
	市社協		薬剤師	2			
	民生委員	2	理学療法士	1			
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	2	
			警察		住民		
			消防		オレンジ協力員		
				合計	32人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
地域につながりを持たない世帯 アに対して、どのように関わり、 見守りが行えるか。	認知症の疑いで日常生活に支 障をきたしているが、親族や 近隣住民との交流はない。本 人なりの目的があり外出して いるが社会とのズレが生じて いる。	○	○町会単位で住民が集まり交流 できる活動の活発化。 ○民生委員が訪問で得た情報を 地域で共有できるように、シス テムづくりの検討。 ○新規の相談があった際に、相 談窓口をどのように知ったか確 認し、普及活動につなげる。	○活動やイベントの場として、 空き家の活用を検討、推進する。 ○避難行動要支援者名簿等を活 用し、地域全体で見守りができ るネットワークづくり。

3. 明第2東地区推進会議（平成30年9月19日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	地域に気軽に集える場がない方に何ができるか。	<p>○筋力低下のためふらつきがあるが、自宅周辺を歩き回っている。趣味はあるが頻度が少なく、日中外出するような居場所がない。</p> <p>○判断力・理解力低下のため金銭管理が十分に行えないが生活はできている。介護保険は非該当だが、日中活動できる場がない。</p>	○	<p>○老人会やパトロール、ふれあい会食会などの周知や声掛け。</p> <p>○男性が気軽に集まれる場所として、スーパーのフリースペースなどの活用を検討する。</p> <p>○イベントなどの際に、参加者にどういった集いの場を求めているかアンケート調査をする。</p>	<p>○市全域の資源情報を一元管理する仕組み</p> <p>○2号被保険者や障害はあるがサービスが利用できないなど、制度の狭間にいる方が集える場の創出</p> <p>○送迎車の手配や公共交通機関の無償化など、移動手段がない方への支援</p>

4. 本庁地区推進会議（平成30年6月20日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
6月20日 （水） 14：00～ 16：00	町会		医師	1	ケアマネ	3	「地域の関係者がどのように連携を図れるか」 （議題の背景） ・本庁地区の特徴として独居世帯が多い ・問題が大きくなってから相談につながる傾向が強い ・困難事例の共通課題として、独居、地縁のなさ、地域との関係の希薄性がある。 ・関係機関の連携不足により適切な支援につながらないケースがある。
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	4	
	市社協		薬剤師	2			
	民生委員	3	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察	1	しぐなるあいず	1	
			消防	1	マンション元理事	1	
			理学療法士	2	実習生	1	
				合計	27人		

（2）議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 （①に関係する個別事例がある場合に記入）	③地域での 解決の是非 （○・×）	④地域での対応方針 （③が○の場合に記入）	⑤市レベルで期待すること （任意記入）
関係機関の連携が図れず、早期の把握や適切な支援につながりづらい。	十数年前に脳出血後てんかん発作を発症した。その後、定期受診につながっておらず、発作の不安から救急要請を繰り返す。配偶者への被害妄想が強く、警察へ何度も訴えに行く。配偶者はどこへ相談したらよいかわからず、適切な支援につながっていない。	○	○関係機関の活動を互いに知る。 ○日頃から顔の見える関係づくりができる機会をつくる。 ○それぞれの関係機関が活動の周知を図る。 ○個人情報保護の観点を踏まえつつ、それぞれの立場から情報共有ができる仕組みづくりを考える。	○警察や消防が市と連携し、情報共有を図る仕組みづくり

5. 本庁地区推進会議（平成30年12月19日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
12月19日 （水） 14：00～ 16：00	町会	1	医師	2	ケアマネ	3	テーマ：地域の人が集まり交流が図れる場所づくり ・個別ケア会議のケースの中での課題から、独居で要支援レベルの方の居場所がない。 ・地域の人が気軽に集えるような場所が少ない。 ・認知症カフェがない。 以上のような課題から本庁地区に居場所をつくることをテーマとした。
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	5	
	市社協		薬剤師	2			
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		作業療法士	1	地域包括	4	
	オレンジ協力員	2	社会福祉士		市役所	4	
			警察		他地区包括	1	
			消防				
			理学療法士		実習生	1	
				合計	30人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域に誰もが気軽に集える場所がない。	○金銭管理や健康管理が難しく入退院を繰り返す独居高齢者。日常生活動作は自立しているが地域とのつながりもなく、日中行き場がない。 ○意欲低下により閉じこもり、不活発な生活となっているが、デイサービスの利用は好まず、近くに通えるような地域の集まりもない。	○	○日曜日に開放可能なデイサービスを活用し、地域の集いの場をつくる。 ○社会貢献に理解のある企業に協力していただき、商店などを活用したつどいの場をつくる。 ○担い手の養成のために、オレンジ協力員等の横のつながりをつくる。	○市が企業などと協定を結び、場を確保できないか。 ○場を提供する事業所等へ、市が何かしら評価を行うことができないか。

6. 矢切地区推進会議（平成30年12月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
12月20日 (木) 10:30~ 12:00	町会	1	医師		ケアマネ	2	1.松戸市地域ケア会議報告 2.在宅医療・介護連携支援センターについて 3.地域密着型サービス（定期巡回）の説明 4.終活かるた 5.グループワーク 病気や障害を持って安心して暮らしていけるサービスを知ってもらうためには
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	4	
	市社協	1	薬剤師	1			
	民生委員	5	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		作業療法士	1	地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	3	
			警察		在宅医療・ 介護連携セ ンター	1	
		消防					
				合計	24人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
在宅ケアの市民への周知、普及を図るために、さらなる取組みが必要である。	<p>○地域で長い間、民生委員や近隣住民によって見守られていたが、家賃滞納やライフラインの停止、幻聴や独語も見られるようになった。本人は病院嫌い。</p> <p>○認知症で寝たきり、褥瘡があるが、介護保険制度の利用を一切拒否し、介護者一人で介護しているケース。</p>	○	<p>○地域の事業所や地域包括が、住民に対して制度やサービスについて説明会を開催する。</p> <p>○地域包括が地域の行事などに参加し、周知活動をする。</p> <p>○地域のサロンや老人会などで終活かるたを利用し、制度などについて知るきっかけ作りをする。</p> <p>○交通の便が悪く出かけられない方が多いため、講演会を身近なところで開催する。</p>	<p>○介護保険制度等の新しい情報について、若い世代も含めた市民向け説明会を開催する。</p> <p>○市民が情報を得る手段として町会があるため、町会加入についての取組みをすすめる。</p>

7. 東部地区推進会議（平成30年9月21日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月21日 (金) 13:30~ 14:30	町会		医師		ケアマネ	1	1.地域ケア会議について 個別ケア会議、推進会議、市地域ケア会議の役割・ 意義について 2.個別ケア会議・市地域ケア会議の報告 3.会議を通じて把握された課題について ・地域につながりを持たない高齢者を把握する仕組み づくり ・多世代の交流の場の創出
	地区社協		歯科医師		介護事業者	1	
	市社協		薬剤師				
	民生委員		看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連	6	医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	2	
			警察				
		消防					
				合計	13人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域の人が、高齢者の生活を支援する制度や相談機関について十分な知識がないため、高齢者のみの世帯に不安を抱えがちである。	夫婦ともに認知症があり、要介護状態の世帯について、近隣住民が積極的な援助はしないものの「高齢者だけの心配な世帯」と遠巻きに見守りつつ、不安を感じている。	○	○地域包括が主催するケアマネ交流会に地域住民（民生委員や高齢者支援連絡会）に参加してもらい、活動紹介や情報交換の場を設ける。	
イ	多世代の交流の場をどのように作ってゆくか。		○	○地域包括が子供と高齢者の交流を図っている行事やイベントについて情報を収集し、一緒に参加できるよう働きかける。 →11月の東部ふれあい広場に参加し、若い世代を対象に高齢者疑似体験を実施する。	

8. 常盤平地区推進会議（平成30年11月15日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月15日（木） 13:30～ 15:30	町会	12	医師	1	ケアマネ	14	1. 7月9月の地域ケア個別会議で検討した事例の紹介 2. 松戸市の詐欺被害の現状（松戸警察署職員） 3. 個別事例③について地域でできることグループワーク実施後、発表 4. 地域医療に携わる医師から一言（堂垂医師）
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者	4	
	市社協	1	薬剤師	3	司法書士		
	民生委員	2	看護師		NPO		
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	8	医療相談員	3	地域包括	5	
	一般市民		社会福祉士		市役所	4	
			警察	1	その他	6	
			消防				
					合計	67人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で起きた詐欺被害の状況を地域全体で情報共有することが必要である。		○	○自治会・町内会での回覧等、防犯活動の強化や被害状況の報告など連絡体制の構築。 ○被害に遭った人、詐欺未遂被害者が体験を語る。	○広報や防災無線・メール等を活用した詐欺被害の周知。 ○情報受け入れ体制の整備。 ○警察・金融機関・福祉専門職への連絡・通報体制の構築。
イ	詐欺被害防止の対策について、情報提供や周知に課題がある。	同居家族があり認知症状軽度の女性がキャッシュカード詐欺に遭った事例	○	○留守電機能の活用や詐欺被害対策機器の周知 ○詐欺被害防止方法の情報提供（通帳・カードを家族が預かる、ATMでの声掛け、玄関モニターの活用、防犯カメラの設置等） ○詐欺被害防止チェックリストの配布・実施。	○詐欺被害対策方法の周知 ○対策機器の貸与に関する申請方法の簡略化。 ○防犯機器の助成。 ○被害防止チェックリストの作成・配布やビデオ制作等

8. 常盤平地区推進会議（平成30年11月15日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	高齢者が被害にあう前に早期発見、早期対応ができる地域の体制を整える必要がある。		○	○日ごろから地縁・血縁関係を築き、近隣住民が顔の見える関係やつながりを構築する。 ○被害に遭いやすい高齢者への声かけ支援 ○詐欺被害にかかわらず、高齢者の相談を聞く。	○相談窓口の設置 ○町内会活動の把握
エ	詐欺被害防止における意識の向上について、町会を含めた地域全体での取り組みが必要である。	同居家族があり認知症状軽度の女性がキャッシュカード詐欺に遭った事例	○	○地域、学校、薬局、病院、商店、介護事業所が一斉に詐欺被害防止キャンペーンを実施する。 ○サロン等で詐欺被害防止について話し合いの場を提供する。 ○詐欺被害対策の講演会やビデオ上映会の開催。 ○地域の掲示板、店舗、病院、薬局などで対策ポスターの掲示。 ○詐欺被害防止ステッカー配布や、対策マニュアルの作成・配布。 ○詐欺被害防止訓練の実施。	○地域での広報活動に使用する資料の制作・情報提供 ○詐欺対策の講師の手配 ○詐欺被害防止ステッカーやポスターの作成・配布・掲示 ○詐欺被害対策マニュアルの作成

9. 常盤平団地地区推進会議（平成30年8月3日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
8月3日 (金) 13:30~ 15:00	町会	5	医師	1	ケアマネ	5	○個別ケア会議で出た地域課題に対し、お互いの活動内容の理解をまず深める。 ○高齢者の見守り隊のような組織がない。 ○団地住民同士の見守りネットワークがほしい。
	地区社協	4	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		司法書士		
	民生委員	2	看護師		NPO		
	ボランティア		保健師				
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
	一般市民		社会福祉士		市役所	1	
	その他	2	警察				
			消防				
					合計	24人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	高齢者の見守りに関する具体的な活動や支援の内容について、情報共有が不足している。	独居高齢者。日常生活動作能力が低下し、清潔保持が困難になっているが干渉されずに生活を送っていきたく希望があるケース。	○	○見守りや相談を行っている自治会、民生委員、介護サービス提供者が、それぞれの役割を知る。 ○情報共有やハブ機能を果たすため、地域包括はじめ専門職がかかわることでネットワーク構築の一步になる。	○防災無線による行方不明者の捜索、QRコードを使った見守りシールについて、地域住民に事業を積極的に周知する。

10. 五香松飛台地区推進会議（平成30年9月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月20日 (木) 13:30 ~15:30	町会	9	医師	4	ケアマネ	1	1.地域ケア推進会議の説明 2.今年度地域ケア個別会議で協議した事例概要を説明 3.グループワーク
	地区社協	2	歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	特養職員		
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	理学療法士	1	地域包括	5	
	防災	1	社会福祉士	1	市役所	1	
	五香松飛台 皆護ネット ワーク	1	小学校教頭	1	病院事務長1 実習生 2		
			消防				
				合計	35人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	繋がりをもちやすいように、世代ごとの特徴をとらえたサロン等の開催が必要である。		○	○NPO協議会等と連携し、サロン等のマップ作りを行う。	
イ	地域住民が認知症の人の見守りをスムーズに行うことが難しい。	共依存の家族関係で、地域とつながりがなく、介入が困難な事例	○	○町会・民生委員・高齢者支援連絡会が地区社協等を通じて三者会議を行う。 ○町会やサロン単位での認知症サポーター養成講座の開催ができるよう、地域包括が各団体や自治会等に呼び掛ける。	○地区ごとに三者会議などで見守り関係者が連携することの重要性を啓発する。 ○認知症サポーター養成講座についての市民への普及啓発
ウ	相談に関するネットワークをもっていない人が多い	高齢の本人、病気の子、問題を抱えている子の配偶者、孫と一緒に生活する事例	○	○地域包括の普及啓発活動を地区社協を通じて各自治会に行う。	

1 1. 六実六高台地区推進会議（平成30年11月21日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月21日 (水) 13:30~ 15:30	町会	1	医師	1	ケアマネ	6	1.参加委員の自己紹介 2.地域ケア会議について 3.平成30年度上期 地域包括支援センターの活動報告 4.平成30年度 これまでの松戸市地域ケア会議・地域個別ケア会議の報告 5.課題検討：個別ケア会議より ～住民同士（多世代の交流を進めるためには～ 6.次回以降の地域ケア会議について 7.その他 ・介護者のつどいについて ・認知症サポーター養成講座の案内
	地区社協		歯科医師		介護事業者	5	
	市社協		薬剤師		特別養護老人ホーム	1	
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	医療相談員		地域包括	3	
	老人会		社会福祉士		市役所	1	
	通所方元気応援クラブ		理学療法士	1	通所型元気応援クラブ	1	
				合計	23人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	住民同士の関心が薄い	支援が必要な状態で、何年も前から商店等に来ていたが、誰も包括に相談していなかった。	○	○既存の集いなどを周知し、地域で多世代が集える場所づくりを検討していく。	
イ	地域住民に認知症の理解を促す必要がある	認知症の人が何度も同じことを地域住民宅に聞きに行ってしまう。	○	○認知症サポーター養成講座や小中学生に認知症の授業を行い、幼少期から認知症の理解を深める。	
ウ	排泄介助が必要な方が利用できるトイレがない		○	○特養などの施設は、オムツ交換場所やトイレをいつでも貸すことができると思われるため、地区内の施設に聞き取り調査を実施し、受け入れ施設の目印となるものの作成を検討する。	

12. 小金地区推進会議（平成30年11月27日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題	
11月27日 (火) 10:00~ 12:00	町会	1	医師		ケアマネ		1.緊急時における対応方法・連絡先の確保手段の周知について 2.小金地域個別ケア会議の報告 3.認知症高齢者に対する早期発見・早期対応について 4.小金地区における情報共有 (感染症の状況と対応方法について)	
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者			
	市社協		薬剤師					
	民生委員	2	看護師	2				
	ボランティア			保健師				
	高支連	(1)	医療相談員		地域包括	2		
			社会福祉士		市役所	3		
			警察	1				
		消防	1					
				合計	13人			

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症高齢者の早期発見・早期対応の必要がある。	5年前にアルツハイマー型認知症と診断されていたが、重度化した現在まで介護サービスを受けていなかった。	○	○地域の医療関係機関・民児協・高支連と連携し、「まつど認知症予防プロジェクト」を押し進める。	○地域でのネットワーク構築のためのバックアップ
イ	高齢者・軽度認知症の高齢者が気軽に通える集いの場が必要。	80代、独居、歩行能力の低下により活動範囲が狭まり、人との交流も少なくなった。	○	○認知症カフェ等の増設 ○オレンジ協力員による認知症高齢者の個別支援（自宅からカフェまでの送迎など）	○居場所作りをしようとしている人、団体への支援
ウ	救急搬送時に認知症などで、本人が発信できない場合の必要な情報の共有が必要。		○	○七福神カード、緊急時情報用紙の活用 ○近所をはじめ地域の人に声をかけておく。	

12. 小金地区推進会議（平成30年11月27日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
工	病院の外来で、認知症の方の残薬の把握が困難である。		○	○病院とケアマネ、地域包括、民生委員、薬剤師会の連携 ○在宅生活のサイクルを整え、自力での通院を支援する。	
オ	病院受診時におけるキーパーソンの多様化への対応が増えている。	籍を入れていないパートナーや、実際に看ている家族とキーパーソンの家族が違うなど。	○	○本人とキーパーソンの関係を把握しておく。	
カ	災害時における、町会役員の高齢化による担い手不足		○	○若い世代への町会活動の周知	

13. 小金原地区推進会議（平成30年9月21日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月21日 (火) 16:30~ 18:00	町会	3	医師	2	ケアマネ	3	1.地域ケア会議のついで理解 2.平成29年度第2回地域包括ケア推進会議のまとめ(報告) 3.平成30年度第1回、第2回地域個別ケア会議の検討内容について(報告) 4.小金原地域の住民や専門職ができる、みまもりあい活動にはどのようなことがありますか?(グループワーク)
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	1	
	市社協		薬剤師				
	民生委員	4	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	6	
			社会福祉士	2	市役所	2	
			警察		認知症コーディネーター		
			消防		作業療法士	1	
				合計	28人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談・連絡体制、ネットワークの構築が必要である。	<p>○配偶者が慢性疾患の重度化により入院し、事実上独居となる。物忘れも多くなっているため、安否確認や金銭管理、ごみ捨てなどについて見守りが必要。</p> <p>○集合住宅に独居だが、物忘れが多くなり、トイレや洗濯機の水漏れを繰り返している。子供などの支援は拒否。金銭管理が不十分であり、約束事を忘れることも多く、地域でどのように支えていくかが課題。</p>	○	<p>○全世代の地域住民が見守り、見守られる地域を作るために、「みまもりあい中」と題したプレートを製作し、自転車のかごや自動車に貼り付け、見守り活動を展開している。また、気軽に身につけられるキーホルダーも製作し、住民に広く配布している。</p> <p>○多世代で活用できるように社会資源マップの整備を行う。</p>	○平成29年度に作成した「みまもりあいマップ」を市全体で活用することを期待する。

14. 新松戸地区推進会議（平成30年11月15日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月17日 (木) 10:00 ~12:00	町会	2	医師	1	ケアマネ	2	1.新松戸地域包括支援センター活動報告 2.推進、個別ケア会議の振り返り(H30年7月・9月開催分) 3.グループワーク「防災・災害について」 4.その他 来年度の日程について
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師	1	小規模多機能	1	
	民生委員	2	看護師	1	リハビリ	2	
	ボランティア		保健師	0			
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	5	
			社会福祉士		市役所	4	
			警察	2	新松戸中央総合病院 1		
			消防	1			
					合計	29人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	要支援者やリスクの高い人を含め、防災意識がない、避難場所を把握していないなど、災害に対する準備が不足している。		○	○防災ウォークを行い避難場所を確認する、避難訓練で非常食の試食をするなど、防災意識を持つように住民、各家庭、事業所等への働きかけを行う。	○危機管理課発行のパンフレット（災害時の持ち物・避難場所などをまとめたシート）の配布等、市民や事業所向けに啓発活動を行う。
イ	地区によって住民の把握状況に差があり、災害時の要支援者等の安否確認が難しい。		○	○地域の結束力、つながりの強化。 ○住民に情報登録の大切さを伝える。 ○町会・自治会への加入の促進。 ○避難所に協力してくれるケアマネ・訪問看護師等についての情報のリスト化。	○災害時の個人情報開示についての規制緩和を検討する。 ○松戸市避難行動要支援者名簿等への登録を促進する。 ○住民票の登録の際に、災害や防災の観点から、町会等への加入をすすめる。

14. 新松戸地区推進会議（平成30年11月15日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	一つの町会内で複数の避難所にまたがる場合がある、運営主体である町会の委員会の立ち上げがされていない等、災害時の避難所運営が難しい。		○	○学校、町会単位での会議を継続的に開催する。 ○避難所運営ゲームの実施などを行い、避難所運営委員会の現状把握と周知を行う。 ○電柱に記載されている避難所の確認。	○避難所運営に関する支援や情報提供、周知。 ○避難所運営を行う人材の育成。 ○住民への仕組みの周知。
エ	災害情報、物資が避難所までしか届かないため、町会や在宅避難者への提供が難しいなど、災害時の情報共有や伝達に課題がある。		○	○事前に情報収集や伝達方法を決めておき、マニュアル化し、認知度を上げる。 ○マンション等小さなコミュニティから少しずつ繋がるような仕組みづくり。 ○地域のつながりを作り、その中で情報共有をする。	○各職能団体内で情報共有や連絡体制の構築を図るよう通知する。
オ	避難所の受け入れ体制がどの程度かわからない、施設等の受け入れマニュアルがあっても実際に対応できるかわからないなど、施設からの避難、施設への避難に課題がある。		○	○福祉避難所への移送方法を検討する。 ○施設と避難所運営委員会との意見交換やマニュアル作り。 ○施設では訓練や水備蓄等を行う。避難について事前に入居者と相談しておく。 ○施設と避難所運営委員会による合同訓練の回数を増やす。	○小金原地区の要配慮者支援マニュアル作成等を参考に、他の地区でも体制整備を実施できるような相談支援。
カ	災害時の外国人や帰宅困難者への対応に不安がある。		×		○避難所に外国語が話せる人材を配置する。 ○外国語による掲示を検討。 ○外国人や帰宅困難者の避難所受け入れ体制のマニュアル化。

15. 馬橋西地区推進会議（平成30年7月27日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
7月27日 (金) 19:00 ~20:30	町会		医師	1	ケアマネ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・センター実績及び活動報告 ・地域個別ケア会議の振り返り ・地域の課題について ・今後の活動予定について
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	リハビリ	2	
	民生委員	1	看護師		生活相談員	1	
	ボランティア		保健師	1	福祉用具専門相談員	1	
			医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	2	
			警察		法人職員		
			消防		合計	15人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	精神疾患や介護の問題を抱えている、外国籍で日本語が分からず困っているなど、地域で支援が必要な対象者を把握することが難しい。		○	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で行われている外国語の教室などを活用する。 ○ハイリスクアプローチを利用して対象者を把握する。 ○病院の患者同士の繋がりや医師、薬剤師との情報共有を図る。 ○民生委員と情報を共有する。 ○地区社協のいきいきサロンや会食会への参加を呼びかける。 	○ハイリスクアプローチに関する民生委員の負担軽減
イ	精神疾患をもつケースの支援について、住民の理解を得ることが難しい。	精神障害が疑われる住民が、自宅で大きな声を出したり、尿を入れたペットボトルを投げるなど、迷惑行為を行っていたケース。	×		○精神疾患についての普及啓発活動を行う。

15. 馬橋西地区推進会議（平成30年7月27日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	ちょっとした困りごとに対する社会資源やサービスが地域に不足している。	自宅からゴミ置き場まで行けず、ゴミ出しができない住民に対して民生委員がゴミ出しを行っている。	○	○体操教室に参加している元気な高齢者にゴミ出しなどのボランティアをしてもらう。 ○ボランティア活動の実態調査を行う。	○ちょっとした困りごとに対する市独自の介護保険外のサービスを作る。 ○趣旨に合ったボランティア活動ができるようなマッチング

16. 馬橋地区推進会議（平成30年9月6日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月6日 (木) 9:00~ 11:00	町会		医師		ケアマネ	2	1.平成30年2月松戸市ケア会議の報告 2.個別ケア会議で抽出された地域の課題について検討 3.各地域密着型事業所からの報告 4.その他連絡事項
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	4	
	市社協		薬剤師	1	作業療法士		
	民生委員	2	看護師	1	理学療法士		
	ボランティア		保健師	1	NPO法人		
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	17人	

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア 高齢者のサービスがひと目でわかるものがない。		○	○地域包括が市や社協で行っているサービスやインフォーマルサービスなども取り入れ、高齢者が困った時、自分で必要なサービスが可視化できるマップを作成し、本人にも家族にもサービスがわかりやすいものにする。	○実際にマップを活用し、サービスにアクセスできるよう、現在のコミュニティバスの運行に加えて、より小型のミニバンタイプ等で自宅の近くで乗り降りできるような車の運行ができるとうよい。